



食環協 ニュース 135

編集／発行 公益社団法人食品容器環境美化協会 〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・Sビル6階
TEL 03-5439-5121 FAX 03-5476-2883 HP <https://www.kankyobika.or.jp>

地域のために、地域とともに行う美化活動を表彰

「第20回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました

1月31日(金)、「浅草ビューホテル」(東京都台東区)3階「祥雲の間」において「第20回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました。今年も、表彰校の児童や生徒および教職員、保護者の皆さんを始め、行政や飲料団体関係者に遠方よりお集まりいただきました。テレビ局や新聞社など報道機関も多数駆けつける中、20回を迎える節目にふさわしい晴天のもと、会場は功績を称える盛大な拍手に包まれました。

この表彰は、独創的な環境美化教育に継続的かつ熱心に取り組み、地域社会と連携しながら「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践することにより、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

本年度は、35都道府県から推薦を受けた小・中学校35校の中から、審査委員会による厳正な審査を経て、最優秀賞となる「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」の4校が選定され、表彰の運びとなりました。なお、優秀校6校、優良校25校の表彰校については、P9以降に掲載されています。



【目次】

○表彰式・懇談会レポート	P2
○出席者のスピーチ(要旨)	P3~4
○最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー	P5~8
○第20回 環境美化教育優良校等表彰 表彰校一覧	P9
○優秀校・優良校の表彰状等授与式の開催	P10~11

表彰式・懇談会レポート

表彰式では冒頭、当協会の会長柴田暢雄（コカ・コーラ協会副会長）があいさつし、世界規模の課題である海洋プラスチック問題に触れながら、表彰事業の継続意義や地域ぐるみの美化活動の大切さについて述べました。その後、賞状授与に先立ち、表彰校4校の活動内容をスライド映像で紹介。各校の児童や生徒が、地域特性を生かした環境美化活動を住民と連携して取り組む様子が披露されると、参加者は、彼らのひたむきな姿に感動しながら、静かに見入っていました。

賞状・副賞授与に続き、審査委員長の小澤紀美子・東京学芸大学名誉教授が登壇。審査の評価基準を説明した後、日本の大人社会全体にはびこっている「視野狭窄症」への懸念に触れ、「地域づくりに向けて、児童や生徒さんの情熱が地域の大人をつなぎ、地域の変革への大きなうねりとなって力を発揮してほしい」と願いを込めました。



また、来賓として出席された文部科学省の藤枝秀樹氏、農林水産省の高橋清昭氏、環境省の畠中太陽氏からは、「皆さんの美化活動で培われた意識や取り組みの輪がさらに全国に普及することで、環境問題の解決につながることを期待しています」と祝辞を贈りました。

表彰式典後は、都心の夜景が一望できる最上階「バルヴェデール」に移動し、食事や飲み物を囲みながら和やかに懇談会が行われました。

乾杯のあいさつでは、柴田暢雄会長が受賞校の活動をあらためて賞賛するとともに将来を担う子どもたちにエールを送りました。懇談会の途中、児童や生徒が登壇し、各校の環境美化活動を紹介。地域にちなんだクイズや手作り作品を披露しながらの工夫を凝らしたスピーチに会場は大いに盛り上がり、受賞校同士で写真を撮るなど交流も活発に行われていました。

■ 出席者のスピーチ（要旨）

子どもたちの美化活動は未来であり 大人にとっての希望でもある

審査委員長 東京学芸大学名誉教授 小澤 紀美子氏



今回の最優秀校の活動を通して、あらためて地域が「屋根のない学校」となって取り組むことが大事だということを、審査委員として再認識しました。今、私が恐れていることは、日本の大人社会全体に「視野狭窄症」がはびこっているのではないかという懸念です。しかし、受賞校並びにご応募いただいた各校の取り組みは、視野がしっかりと広がっており、児童・生徒の皆さんが「地域のつなぎ役」になっていることを深く知ることができました。地域のご年配の方から、教科書には書かれていない歴史的な視点からのお話を伺い、共感し地域への愛着や誇りを育み、大人の方々と交流し、さらに協働によって充実感を得ていく成長のプロセスが素晴らしいと思いました。お子さん達の活動は、未来でもあるし、大人にとっての希望でもあります。児童・生徒さんの情熱が地域の大人をつなぎ、地域の変革への大きなうねりとなって力を発揮していくことを願っています。

体験活動などを通じて環境への関心を深め 環境保全に寄与する態度を育む

文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤枝 秀樹様

文部科学省では、平成29年、30年に小学校と中学校、および高等学校の学習指導要領を改訂いたしましたが、引き続き環境教育に関する内容を重視しております。今後の社会を生きる子どもたちが、環境に関する知識を身につけ、体験活動などを通じて環境に対する理解と関心を深め、具体的な行動に結びつけられるよう学校教育を始め、家庭や地域などにおける環境教育のいっそうの推進を図っていきたいと考えています。本日受賞されたみなさんには、引き続き生命を尊び、自然を大切に、環境保全に寄与する態度を養いながら心豊かにたくましく成長されることを願っています。



地域をもっと良くしたいという強い思いが 環境問題への理解を深める

農林水産省 食料産業局 バイオマス循環資源課

食品産業環境対策室 容器包装リサイクル班 容器包装リサイクル指導係長 高橋 清昭様



地域のことをよく知り、もっと良くしたいと考える方は多いと思います。しかし、その思いを行動に移すことはなかなか難しいのではないのでしょうか。農林水産大臣賞を受賞された岩手県洋野町立角浜小学校の活動は、地域の清掃活動を始め、漁協とも連携し、海に親しみ、海を知り、海を守って、海を利用する海洋教育学習としても取り組まれています。また、この活動を近隣の小学校にも広げるなど、皆様の強い思いが表れているように感じます。現在、プラスチックごみによる環境汚染が世界的な課題となっています。本日受賞された皆様が、引き続き環境問題への理解を深め、将来を担う人間に成長され、皆様の美化活動が全国に広がっていきますことをお願い申し上げます。

環境美化活動をきっかけに 自分に関心のある分野や夢を見つけて成長を

環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室 室長補佐 畠中 太陽様

海洋プラスチック問題は、今のまま海へのプラスチック流出が続くと、2050年には海の魚の重量よりも、海に漂うプラスチックの重量の方が多くなると予測されています。しかし、海に流れる前にごみを回収する皆様の取り組みは、まさにそうした課題の解決に寄与する影響力のある活動です。また、受賞校の中には干潟の生物を守る取り組みもありました。生物多様性の保全は、生物を守るだけではなく、人間の豊かな暮らしを守ることにもなります。環境は、いろんな分野が関わっています。そこから関心のあるテーマを糧に学ぶことは、教科書だけで学ぶよりも深く身につくことと思います。ぜひ、環境活動をきっかけに、自分に関心のある分野や夢を見つけて成長されることを願っています。



■ 最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー

昔の美しい景観を取り戻す絶海池の清掃が地域活性化もたらす

文部科学大臣賞 高知県 高知市立青柳中学校



自然豊かな五台山の麓にある同校では、近くにある「絶海池」の清掃活動を2018年から行っている。住民にも協力を呼びかけながら、生徒が自主的に企画、実施する取り組みとして地域に定着してきた。その発端となったのが、以前からポイ捨てごみが目立ち、「汚い」「臭う」といった絶海池の悪評だった。「昔はきれいな場所だった」と懐かしむ住民の声を聞いた生徒は、「絶海池クリーン大作戦」を開始。回を重ねるにつれ、徐々にごみは減り、悪臭も消え、生徒は達成感を味わいながら住民とともに活動を継続している。その取り組みに向けた準備や地域との連携体制は、「開かれた学校づくり推進委員会」で決定。生徒の企画に対して、住民から意見やアドバイスが寄せられる貴重な場となっている。現在、校区の名所「濱口雄幸生家記念館」で実施している清掃は、そうした生徒と住民の話し合いの中から生まれた取り組みの一つだ。美化活動を入りに、地域活性化につなげようと挑む生徒の姿に、住民からは期待の声が高まっている。

高知県高知市立青柳中学校のみなさん

「全力で取り組んできたことが評価されてとても感激しています。これからも地域との交わりを大切にし、全校生徒が自分の考えをしっかりと持って行動することで、地域に貢献し、地域に愛される学校にしていきたいです」

高知県教育委員会事務局小中学校課 指導主事 高橋 友理子様

「青柳中学校の生徒さんの努力が報われたことを嬉しく思うとともに、この受賞をきっかけに、地域の清掃活動を行っているけれどもまだ知られていない学校をまずは見つけていきたいです」

高知地方連絡会議 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社

広報部メディアリレーション課 担当課長 宮下 俊哉氏(下写真左)

「今回の受賞は生徒さん達の励みになりますし、地域にも広がることによってさらに環境活動が推進されていくことと思います。本当に取り組んできて良かったと我々の喜びにもつながりますので感謝しきりです」



地域を支えてきた豊かな海や文化の継承活動が郷土愛を養う

農林水産大臣賞 ^{ひろの} 岩手県 ^{かどのはま} 洋野町立角浜小学校

太平洋をのぞむ小高い山の中腹に位置する同校では、1953年頃から校区の^{かどのはま}角浜漁港周辺の磯掃除に取り組んでいる。当初は、地域特産物のウニに悪影響を及ぼすツブ貝の駆除を住民が行っていたが、その後児童も参加するようになった。1970年代からは、海岸にペットボトルや発泡スチロールなどのごみが目立つようになったのを機に、漂着ごみ回収も実施。

こうした美化活動を始めとする海洋教育を深めるために欠かせないのが、地域住民の支援体制だ。種市漁協の講師に、海の環境保全や地形を生かしたウニ栽培法などを学ぶ過程で、児童は地域が抱える問題に真摯に向き合っている。

今年は、初の試みとして、海とは離れた内陸部の小学校と合同で磯掃除を行った。交流を育む中で、海と山が循環していることや、海の保全はみんなで協力する必要があることを考える貴重な機会になった。また、環境や多様な文化を守る風土は、数々の郷土芸能の伝承にもつながっている。地区に伝わる「角浜駒踊り」は、住民の指導のもと、児童が次世代へ継承しながら、ふるさとへの誇りを培っている。



岩手県洋野町立角浜小学校のみなさん

「長く続けてきた角浜小学校の伝統行事「磯掃除」が表彰されて、とてもうれしいです。角浜の海は、県の特産物のウニやアワビが採れ、私たちにとっても自然環境について学ぶことができる大切な場所なので、これからも豊かな海を守っていききたいと思います」

岩手県環境生活部資源循環推進課 主査行政専門員 伊藤 孝行様 (下部写真右)

「今回このような大きな賞を頂き大変嬉しいです。海ごみが世界的な課題になっておりますので、県としても対策に力を入れながら市町村を巻き込んで何ができるのかを突き詰めていきたいと考えております」

洋野町教育委員会事務局 総務学校課 学校教育係 指導主事 田口 千紗都様

「洋野町は海洋教育に取り組んでいます。子どもたちが海を視点にしながら、どういった活動をしていくか、ふるさとをどう盛り上げていくかを、この受賞を機に考えながら活動していこうと思います」



岩手地方連絡会議 みちのくコカ・コーラボトリング株式会社 グループ人事部PR課 係長 浅井 勇貴氏 (下部写真左)

「海洋プラスチックごみが最近問題になっておりますので、この受賞校のように、海ごみを回収する活動をしている学校があるということを認識してもらいながら、一人ひとりが関心を寄せてもらえたら嬉しいです」

田園地帯を流れる拾ヶ堰の美化活動が彼方の海を気遣う心育む

環境大臣賞 ^{あづみの} 長野県 ^{とよしなみなみ} 安曇野市立豊科南小学校



北アルプスをのぞむ豊かな田園に抱かれるように佇む同校では、その環境を生かして、近くを流れる農業用水路「拾ヶ堰」から水を引いた学校ビオトープを1975年に設置した。現在は、アブラハヤやドジョウなどの魚や水生昆虫、それらを捕食するサギなど多様な動植物が観察できるが、今から約20年前、学校ビオトープの一つである百石堰には、ごみが日々流れ込み、掃除をしても追いつかないほどだった。対策として、児童は、取水元である拾ヶ堰の清掃を行うクリーン大作戦を企画して実施。その姿に触発された大人も参加するようになり、20回を数える今年は、保護者や地域住民、団体、自治体職員ら総勢700名で行う一大行事に発展した。

2016年、拾ヶ堰は「世界かんがい施設遺産」に登録された。手応えを実感する児童は、他にもアルミ缶回収活動や花壇整備など、学年に応じた美化活動に励んでいる。拾ヶ堰をきれいにすることは、海の豊かさを守ることにつながることを意識、児童は持続可能な開発目標SDGsをしっかりと見据えている。

長野県安曇野市立豊科南小学校のみなさん

「私たちや先輩たちが行ってきた活動が、地域のためになり、美しい安曇野の環境をつくっているということ、今回の受賞であらためて感じています。後輩の皆さんにも誇りを持ってこの活動を続けていって、自然豊かな安曇野を守って欲しいです」

長野県環境部資源循環推進課 主事 宮寄 幸乃様

「受賞校は、子どもたちが考えて行動し、大人の意識を変えながら地域とともに取り組む素晴らしい活動を行っています。県としても、信州プラスチックスマート運動を開始し、河川一斉清掃活動などを実施しておりますので、小学校や地域といっしょにやっていきたいと考えています」

長野地方連絡会議 カゴメ株式会社 富士見工場 生産管理課 課長 牛島 英貴氏(下部写真左)

「拾ヶ堰という水に関わる美化活動が今回の受賞に結びついておりましたが、私たち飲料メーカーにおいても水は、大切な原料の一部です。この素晴らしい取り組みがこれからも広く継続して欲しいと思います」



学年に応じた個々の美化活動がふるさとの豊かな景観を守る

協会会長賞 石川県 津幡町立条南小学校

県内一の規模を誇る干拓地、河北潟の近くに位置する同校では、2007年から児童が「河北潟調査隊」を結成し、多様な環境活動に取り組んでいる。主に5年生が総合的な学習の時間に、水質や動植物調査、農業体験などを通して河北潟の歴史や環境について学ぶ。水質検査では、目立ったごみが見られなくても、水質汚染につながる測定結果が出る現実を問題視するなど、身近な環境問題に触れながら実践力や思考力を養っている。また、同校に隣接した「中条公園」では、2、4年生が散乱ごみの回収活動を実施。公園内にある池は、用水路を通じて河北潟を行き来する魚が見られ、その調査などを行い豊かな自然を守るために自分たちができることを考え、美化活動に励む。それでもなくならないごみのポイ捨てを実感した児童は、散乱防止のポスターを作成し、公民館や店などに掲示を依頼。最終学年では、「親子資源回収」活動に取り組む。資源のリサイクルを行う過程で、今まで行ってきた河北潟調査と中条公園の美化活動にどんな意義や価値があったかを振り返り、ふるさとへの愛着を育んでいる。

20回 環境美化教育優良校等表彰 最優秀校
主催：公益社団法人 食品容器環境美化協会 後援：文部科学省 農林水産省



石川県津幡町立条南小学校のみなさん

「受賞したことはとても名誉なことだと思いますし、来年もこのような素晴らしい賞に選ばれるように活動が続けていきたいです。後輩の皆さんには、学校だけではなく、地域、さらにも活動を広げていって欲しいと伝えたいと思います」

石川県津幡町教育委員会学校教育課 指導主事 廣谷 一昌様

「条南小学校は開校して20年という節目の年で、この表彰事業と同じ年月を重ねてきています。新興住宅地として新しい方々が集まるエネルギーのあるエリアで、PTAの協力体制も整っています。今後も河北潟の水辺を生かした活動が広がることを願っています」

北陸地方連絡会議 大塚製薬株式会社

金沢出張所 所長 原田 国明氏(下部写真左)

「津幡町は本当に美しいところですので、この環境を守るための取り組みを応援していきたいです。また、受賞につながった条南小学校の取り組みをもっと知って頂けるような活動も行っていきたいと考えています」

第20回 環境美化教育優良校等表彰 表彰校

最優秀校 (4校)

- 文部科学大臣賞 高知県 高知市立青柳中学校 あおやぎ
- 農林水産大臣賞 岩手県 洋野町立角浜小学校 ひろの かどのはま
- 環境大臣賞 長野県 安曇野市立豊科南小学校 あづみの とよしなみなみ
- 協会会長賞 石川県 津幡町立条南小学校 つばた じょうなん



優秀校 (6校)

- | | | | |
|-----|---------------------------------------|-----|-------------------------------------|
| 山形県 | <small>おくに かのみず</small>
小国町立叶水小中学校 | 新潟県 | 長岡市立川口小学校 |
| 福井県 | <small>きたがた</small>
あわら市北潟小学校 | 奈良県 | <small>つきがせ</small>
奈良市立月ヶ瀬中学校 |
| 山口県 | <small>ひかり しまた</small>
光市立島田中学校 | 福岡県 | <small>たがわ い た</small>
田川市立伊田小学校 |

優良校 (25校)

- | | | | |
|------|---|------|--|
| 青森県 | <small>しもきりだ</small>
十和田市立下切田小学校 | 秋田県 | <small>おおだて せいしょう</small>
大館市立成章中学校 |
| 宮城県 | 石巻市立石巻中学校 | 福島県 | いわき市立湯本第一中学校 |
| 茨城県 | <small>ひらいそ</small>
ひたちなか市立平磯中学校 | 群馬県 | <small>たたら</small>
館林市立多々良中学校 |
| 埼玉県 | <small>にしちよう</small>
草加市立西町小学校 | 千葉県 | 市川市立新浜小学校 |
| 東京都 | 東村山市立東村山第六中学校 | 富山県 | <small>おやべ つざわ</small>
小矢部市立津沢中学校 |
| 山梨県 | <small>えんざん</small>
甲州市立塩山北中学校 | 静岡県 | 沼津市立沼津高等学校中等部 |
| 岐阜県 | <small>いわの だ</small>
岐阜市立岩野田北小学校 | 愛知県 | <small>もりやま</small>
名古屋市立守山中学校 |
| 三重県 | 四日市市立港中学校 | 大阪府 | <small>ねやがわ</small>
寝屋川市立第五中学校区 |
| 兵庫県 | <small>にしわき にしわき</small>
西脇市立西脇中学校 | 和歌山県 | <small>みはま</small>
美浜町立松原小学校 |
| 徳島県 | <small>あなん よしい</small>
阿南市立吉井小学校 | 愛媛県 | <small>たくなん</small>
松山市立拓南中学校 |
| 佐賀県 | <small>た く とうげんしょうやとうぶ</small>
多久市立東原庵舎東部校 | 長崎県 | <small>みなみしまばら</small>
南島原市立有馬小学校 |
| 大分県 | <small>かんざき</small>
大分市立神崎小学校 | 宮崎県 | <small>みまた みやむら</small>
三股町立宮村小学校 |
| 鹿児島県 | <small>ひおき いざくだ</small>
日置市立伊作田小学校 | | |

■ 優秀校・優良校の表彰状等授与式の開催

第20回環境美化教育優良校等表彰事業において、全国の小・中学校の中から優秀校、優良校に選ばれた学校において授与式が行われました。その様子を一部ご紹介します。

【優秀校】受賞校6校のうち2校を抜粋紹介

山形県 小国町立叶水小中学校

30年以上継続実施されている、空き缶やビンなどのリサイクル活動。小学1年生から中学3年生まで全校児童生徒数20名の小規模校だが、保護者だけではなく地域全戸が一体となった取り組みで、親子2代にわたり受け継がれている伝統行事でもある。また、児童生徒会による「クリーン作戦」も活発で、幹線道路沿いに散乱している空き缶やペットボトルなどを回収。こうした美化活動を通じて、限られた資源を大事に活用しながら、みんなで地域環境を守ろうという意識が引き継がれ、児童生徒は地域の一員としての自覚を高めている。

「リサイクル活動は楽ではありません。ですから、今回の受賞は大変嬉しく励みになります。地元の古紙回収業者が廃業してしまうなど周囲の環境は厳しいですが、支えて下さる地域の方々のためにも継続していきたいです」

〔授与式の出席者〕 ●山形県 小国町立叶水小中学校のみなさん
●山形地連 柿沢 学氏（アサヒビール株式会社）



奈良県 奈良市立月ヶ瀬中学校

今年で26年目を迎えるアルミ缶回収活動。開始当時の生徒が、「地域のために出来ることをしよう」と全校体制で取り組むようになったのがきっかけで、現在では生徒会と地域が一体となって行う伝統行事になっている。活動趣旨に賛同したアルミ缶リサイクル工場の協力もあり、年間20万円以上の収益金は、すべて福祉関連事業に寄付。そうした体制を支えているのは、軽トラックの提供や回収・リサイクル工場への搬入補助など、協力を惜しまない地域ボランティアの人たちだ。ポイ捨てごみがあれば回収するなど、生徒の美化意識も高い。

「生徒達が26年間行ってきた活動がこのように評価されたことを大変嬉しく思います。引き続き、地域の皆さんとともに継続していきたいと思います」

〔授与式の出席者〕 ●奈良県 奈良市立月ヶ瀬中学校のみなさん
●奈良県 暮らし創造部 松浦 悦子様
●奈良県 暮らし創造部 今野 未来様
●奈良地連 平田 恭史氏（麒麟ビール株式会社）
●奈良地連 本郷 彰一氏（大塚製薬株式会社）
●奈良地連 山名 裕之氏（ダイードリンク株式会社）
●奈良地連 林田 雄一氏（ダイードリンク株式会社）
●奈良地連 芝崎 未知代氏（コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社）



【優良校】受賞校25校のうち4校を抜粋紹介

愛媛県 松山市立拓南中学校^{たくなん}

校区内の清掃活動は1975年頃から続く伝統行事で、各地区別生徒会が町内会長と連絡を取りながら実施している。2018年からは、小学生や公民館、住民と連携した取り組みに発展、地域の偉人である和田重次郎顕彰碑近辺の整備にも努めながら、地域を愛する心を磨いている。毎日実施する無言清掃とともに、熱心に取り組む生徒の姿勢は住民からも高評価だ。



「長い間、毎学期、暑い時も寒い時も地域に出て掃除をしてきました。拓南中学校の伝統としてしっかりと受け継いで次に繋げていこうと懸命に取り組む姿が評価されたものだ、心から感謝しています」

[授与式の出席者]

- 愛媛県 松山市立拓南中学校のみなさん
- 愛媛県 中予地方局環境保全課 笠原 啓治様
- 愛媛県 循環型社会推進課 二神 真様
- 松山市 環境モデル都市推進課 西窪 麻美様
- 松山市 環境モデル都市推進課 石丸 梨香様
- 愛媛地連 藤川 久雄氏 (株式会社伊藤園)
- 愛媛地連 宮下 俊哉氏 (コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社)

宮城県 石巻市立石巻中学校^{いしのまき いしのまき}

今年で96回を数える市の伝統行事「石巻川開き祭り」。その祭り終了後の翌朝、会場周辺の清掃活動に2007年から取り組んでいる。朝6時30分からのボランティア活動だが、ほぼ全校生徒が参加、地域貢献への意欲を高めている。また、毎週金曜日を「クリーンアップ登校日」と定め、通学路の散乱ごみを回収・分別するなど、地域美化にも一役買っている。



「川開き早朝清掃、クリーンアップ登校は10年以上続いている活動です。これまで携わってきた卒業生および当時指導に当たった職員、ご協力頂いた地域の皆様など、たくさんの方々の尽力の賜です。今回の受賞を機に、今後も地道に着実に取り組んで参ります」

[授与式の出席者]

- 宮城県 石巻市立石巻中学校のみなさん
- 宮城地連 松野 孝広氏 (ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社)
- 宮城地連 奥野 陽介氏 (キリンビバレッジ株式会社)
- 宮城地連 遠藤 巧氏 (コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社)

群馬県 館林市立多々良中学校^{たたら}

夏休み期間中に校区内を回りながら空き缶や新聞紙などの資源回収を行っている。週れば1950年代頃、部活動費を集めるために行っていた「2番茶摘み大会」が、1975年代に入り廃品回収活動に変化していった取り組みだ。現在は、地域回覧板などを通じて地域にも広く呼びかけることで、多くの住民の協力を得ている。年1回、地域清掃の美化活動にも励む。



「資源回収や清掃活動を通じて地域に貢献する美化活動は、生徒の皆さんが汗をかきながら一生懸命主体的に行ってきたので、今回認められたことを大変嬉しく思います。今後は、隣接する多々良沼の保全活動にも取り組んでいきたいです」

[授与式の出席者]

- 群馬県 館林市立多々良中学校のみなさん
- 群馬地連 星 文彦氏 (サントリービール株式会社)

大分県 大分市立神崎小学校^{かんざき}

高崎山自然動物公園の麓に位置し、別府湾をのぞむ豊かな自然環境に恵まれた同校では、30年以上にわたり「田の浦海岸」の清掃活動を行っている。大勢の利用者で賑わう海開き前と、夏休み終了時の2回、住民とともに約200名でポイ捨てごみ回収や草刈りを実施。美化活動を通して、通学時の見守り活動や共催の運動会など、学校と地域の連携も活性化している。



「長年、地域と小学校が協力をして取り組んだことが認められて大変嬉しく思います。この受賞を機に、もう一度初心に戻り、子どもたちが環境を守る行動を主体的にすることができる人になるために、継続して海岸清掃に取り組めます」

[授与式の出席者]

- 大分県 大分市立神崎小学校のみなさん
- 大分県 生活環境部 伊東 龍治様
- 大分地連 衛藤 直宏氏 (株式会社ジェイエイフーズおおい)
- 大分地連 長尾 大介氏 (株式会社ジェイエイフーズおおい)

学校における環境学習の教材の一部として活用が出来ます。



「まちの美化」と「リサイクル」をテーマにした小学生用のサイトがあります！

まち美化キッズ

【サイトのご紹介】

「まち美化キッズ」は、食品容器環境美化協会が小学校高学年を対象に制作した学習 Web サイトです。児童たちの身の回りにある飲料容器「びん、かん、ペットボトル」を通して、環境美化・リサイクルの大切さや仕組みを「まち美化ってなあに?」「ポイ捨てストップってなあに?」「調べ学習コーナー」等、楽しく学べる構成となっています。



まち美化ってなあに?



ポイ捨てストップってなあに?



ホームページは
こちらから

まち美化キッズ

検索

<https://www.kankyobika.or.jp/kids>

